1 選手交代に関する事項

第13条第1項 正規の選手交代

第1項 正規の選手交代

- 1 選手交代は、ラリー終了後、次のサービス許可の吹笛までに、要求しなければならない。この場合のラリー終了とは、いずれかのチームが相手チームの反則により1点を得た場合をいう。(第8条)
- 2 選手交代の要求とは、コートに入る準備のできた交代選手が、選手交代ゾーンに入ることをいう。この場合、それぞれのセットの試合開始前の選手交代、およびコート内の選手の負傷や病気(以下「負傷等」という。)による選手交代を除いて、監督またはゲームキャプテンはハンドシグナルを示す必要はない。
- 3 選手交代は、1セットにつき6回まで要求することができる。
- 4 選手交代は、それぞれのセットの試合開始前においても要求することができる。この場合、監督またはゲームキャプテンはハンドシグナルを示して要求しなければならない。またこの交代は、そのセットの正規の選手交代として記録する。
- 5 選手交代は、同時に2組以上の交代を要求することができる。この場合、コートに入るすべての交代選手は、同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。この場合、監督およびゲームキャプテンは組数を示す必要はない。複数の交代は1組ずつ連続して行う。
- 6 コート内の選手が負傷等した場合を除き、同じ中断中に2回目の選手交代を要求することはできない。
- 7 交代選手は、選手交代ゾーンに入ったときはコートに入る準備をしていなければならない。交代する選手は、交代の要求が認められたときは速やかに選手交代ゾーン内のサイドライン上で片方の手を上げ、副審の合図で交代する。
- 8 先発選手は、1セットにつき1回だけ交代してコートを離れることができる。また1セットにつき1回だけ自らの交代選手と交代してコートに戻ることができる。
- 9 交代選手は、1セットにつき1回だけ先発選手と交代して試合に出ることができる。交代選手は、負傷等した場合を除き、試合の再開後1つのラリーがあった後でなければ、再び交代してチームベンチに戻ることはできない。交代選手がチームベンチに戻る場合は、自らが交代した先発選手とだけ代わることができる。
- 10 交代選手のサービス順は、交代した先発選手の順位に入る。サーバーが交代したときは、サービス権は交代選手に引き継ぐ。この場合は、サービス順を変更したことはない。
- 11 交代選手が交代してチームベンチに戻ったときは、例外的な選手交代による場合を除いて、同一セットでは再びコートに入ることはできない。

(注)

- 1 交代選手が準備できていない場合は、その要求は拒否され遅延の罰則が適用される。
- 2 交代選手がサービス許可の吹笛後に選手交代ゾーンに入った場合は、拒否をして不当な要求とする。
交代選手が、サービスの吹笛後に選手交代ゾーンに入り、このとき副審が吹笛した場合は、遅延の罰則が適用される。
- 3 複数の選手交代を要求したとき、1組の交代選手が遅れた場合、その遅れた選手交代は拒否される。
- 4 複数の選手交代を要求したとき、組合せの中で不法な選手交代である場合と選手が準備できていない場合は、その交代は拒否され遅延の罰則が適用される。ただし、正しい交代や遅れていない交代は認められる。
- 5 複数の選手交代については、1組目の記録が完了するまでは2組目はサイドライン上には立たせない。
- 6 5回の選手交代を終えた後に、2人以上の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきたとき、副審は監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。
※選手交代の要求とは、コートに入る準備のできた交代選手が、選手交代ゾーンに入ることをいうが、セット開始前(0:0時点)の選手交代の要求時は監督、或はゲームキャプテンがハンドシグナルを用いて要求する。

「選手交代の手順」

- ① 交代選手が、選手交代ゾーンに入ったら、副審が選手交代の吹笛しハンドシグナルを示す。
- ② 副審は、ポール付近で選手交代をコントロールする。
- ③ 副審は、交代選手の方を向き、選手をサイドライン上に止まらせて片方の手を挙げさせる。
- ④ 副審は、コート内の交代する選手に片方の手を挙げさせる。
- ⑤ 記録員は、その交代が許可できる組合せであれば片方の手を挙げて副審に合図を送る。
- ⑥ 許可できない場合は記録員が片方の手を横に振る。
- ⑦ 副審は、記録員を確認し、選手に手で合図をして交代を許可する。
- ⑧ 記録員は記録用紙に交代の状況を記入して、手続きが完了したら両手を挙げる。
- ⑨ 複数の選手交代の場合は、1組ずつ③から⑧の手順を同様に行う。
- ⑩ 副審は、記録員を確認し、完了を主審に知らせる。

第13条第2項 セット間の選手交代

セット終了時にベンチにいた選手は、誰とでも交代して、次のセットの先発選手となることができ
る。この交代は、選手交代の回数に含まない。

(注)

- 1 セット間に、監督から次セットの先発選手の申告がない場合には、速やかに監督に確認を行う。
確認の際は、記録用紙ではなくサービスオーダー票で確認する。(競技参加者に記録用紙を見
せない)
- 2 セット間に、監督から次セットの先発選手の申告がされ記録用紙への記入が完了した後も、
再度、監督から先発選手の交代が出された場合は、副審のセット間終了(2分30秒)の吹笛
前であれば認める。

2 試合中断の不当な要求と処置に関する事項

第14条第1項 不当な要求

タイムアウトまたは選手交代の要求で、次のいずれかに該当するものは、不当な要求とする。

- (1)ラリー中、または主審のサービス許可の吹笛と同時か、その後の要求
- (2)要求する権利のない競技参加者がした要求
- (3)同じ中断中の2回目の選手交代の要求(インプレー中の選手が負傷等した場合を除く。)
- (4)規定回数を超えた要求
- (5)第1サービスと第2サービスの間の要求

(注)

- 1 1回目の不当な要求は拒否をして、記録用紙に記載する。
 - (1)『サービス許可の吹笛と同時かその後の要求』と『インプレー中の要求』は、ラリー終了後
に公式記録用紙に記録する。
 - (2)『第1サービスと第2サービスの間の要求』、『同じ中断中の2回目の選手交代要求』、『規定
回数を超えた要求』と『要求する権利のない者がした要求』は、これらの要求があった時点で
公式記録用紙に記録する。
- 2 2回目の不当な要求(遅延警告)の処置の方法
 - (1)『サービス許可の吹笛と同時かその後の要求』と『インプレー中の要求』は、ラリー終了後
に処置する。
 - (2)『第1サービスと第2サービスの間の要求』、『同じ中断中の2回目の選手交代要求』、『規定
回数を超えた要求』と『要求する権利のない者がした要求』は、これらの要求があった時点で
処置をする。
※但し、そのチームが既に遅延警告が科せられている場合には、下記、「3回目の不当な要
求(遅延反則)の処置の方法」と同様の処置をする。

3 上記1, 2のケースで副審が吹笛してしまった場合は、プレーに影響を及ぼしており、不当な要求の5項目いずれの場合であっても、その時点（ラリー中であっても）で遅延警告（反則）の処置をする。

4 3回目の不当な要求（遅延反則）の処置の方法

不当な要求5項目のいずれの場合であっても、その時点（ラリー中であっても）で処置する。

以上のように不当な要求があった場合、その都度記録員は、公式記録用紙に記録し、副審は、その内容を主審に報告する。

第2項 処 置

- 1 不当な要求は、主審および副審は拒否する。ただし、プレーに影響を及ぼしたり、同一試合中に同一チームの競技参加者が不当な要求を繰り返したときは、そのチームを試合の遅延（第26条）として処置する。
- 2 不当な要求があった場合において前項の規定が適用されたときでも、そのチームは同じ中断中に異なる種類の中断の要求をすることができる。

（注）

- 1 規定回数を超えた選手交代を要求し、その交代が拒否されたり、試合の遅延の警告を受けても、タイムアウトの要求はできる。
- 2 規定回数を超えたタイムアウトを要求し、その要求が拒否されたり、試合の遅延の警告を受けても、選手交代の要求はできる。
- 3 第1項(2)の不当な要求があった場合、その後直ちに監督またはゲームキャプテンが同じ種類の要求のハンドシグナルを示したときは、その要求を認める。
- 4 不当な要求が遅延反則になったときは、ラリーの終了があったものとして取り扱う。

3 サービスに関する事項

第23条第3項 サービスの反則

次のいずれかに該当するときは、サービスの反則とする。

- (1) サービス順を誤ってサービスをしたとき。(サービス順の誤り)
- (2) サービスの失敗を2回続けたとき。(ダブルフォルト)

(注)

サービス順を誤ってサービスをしたときの処置手順を再度確認する。

- 1 記録員は、誤ったサーバーが、サービスをしたときに、ブザーで通告する。

※ サービスを打つ前に通告しない。(副審に間違っていることを話しかけない)

- 2 副審は、片方の手を上げて吹笛をして合図をし、ラリーを止める。

- 3 副審と記録員は「誤ったサーバーのサービスであった事」の事実と、次のサーバーの番号を確認する。

※サービス順の誤りの事象を記録用紙上で確実に捉え、副審に報告することが重要である。

例) ○番がサービスを打つところ、○番がサービスを打ちました。次のサーバーは○番です。

また、審判員が事実を確認している最中には競技参加者に記録用紙を見せない

- 4 副審は、吹笛をして「サービス順の誤り」のハンドシグナルを示し、サービス順を誤った選手を指す。その後、主審は、「ポイント」のハンドシグナルを示し、副審も主審のハンドシグナルに追従する。
- 5 副審は、サービス順を誤ったチームのゲームキャプテンを呼んで、次のサーバーの番号を告げる。

※チームがサーバーについて審判団より誤った情報を与えられたとき、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点の状態にサービス順を戻し、得点も誤った情報が与えられた時点まで戻す。タイムアウト、罰則はそのまま有効とする。これらの事実は記録用紙に記録されなければならない。

4 試合前の準備に関する事項

第6条第1項 トス

- 1 両チームのチームキャプテンは、試合開始前にトスをする。トスに勝ったチームキャプテンは、次の選択をする。

- (1) サービスを打つ(以下「サービス権」という。)か、サービスをレシーブする権利。

または

- (2) どちらのコートに入るか。

トスに負けた方は、残された選択をする。

5 その他

(1) 公式ハンドシグナル

第1項 主審と副審の公式ハンドシグナル（第7図）

- 1 主審および副審の公式ハンドシグナルは、別図（第7図）のとおりとする。
- 2 主審および副審は、ラリーが終了したとき吹笛し、判定した反則の種類を公式ハンドシグナルを使って、次の要領で示さなければならない。片方の手で示す場合は、反則をしたチーム側の手を用いる。ハンドシグナルは、しばらくの間、示し続ける。
 - (1) 主審が吹笛したときは、主審は次の順序で示す。
 - ① 得点を得た（次のサービスを行う）チーム
 - ② 反則の種類
 - ③ 必要に応じて反則をした選手

(注)

- 1 主審がホイッスルした場合、反則をした選手が明らかであれば、選手を示す必要はない。

(2) ゲームキャプテンの確認

コート内のチームキャプテンが交代してコートを離れるときは、コート内の選手の中からゲームキャプテンを監督からの指名により確認するが、次セット以降も同一のケースに於いて同一選手によるゲームキャプテンの確認は、試合を通して一度でよい。

(3) 監督が試合に遅れてきた場合

- ① 遅れて来た監督は、ベンチに着席することができる。
- ② ゲームキャプテンは、監督が来たことをラリー間に審判へ口頭で伝える。
- ③ 審判が、監督が来たことを確認したら、監督は権利を行使することができる。
- ④ 監督は、セット間もしくは試合終了後に記録用紙にサインする。